



自治会公民館

開邦高校方面よりの集落状



【自治会紹介】 東新川の集落形成は古く、琉球王国時代に首里土族や造り酒屋の奉公人として、すでに十数件の家屋が居を構えていたそうです。また、第一尚王統誕生の頃から聞得大君（きこえおおきみ）始め、琉球王府一行が東御廻い（あがりうまーい）で通った、当時の主要道路である宿道があり、この道に架かる下原橋は、1,677 年石橋として改修されて以来、今も現役で使用されています。この道を通して首里王府の政治・経済及び文化は、南風原町や南城市一帯の東部地域に迄広まったと考えられています。

那覇市に隣接し利便性の良い地域にも拘らず、市街化調整区域となっていますが、近年、区画整理事業を導入し住宅地域増を目指して、まちづくり事業が動き始めました。

【史跡・名所】



環境の杜ふれあい



殿毛



殿井



下原橋



ナゲーラ豪



ウフ橋

【自治会活動】



グラウンドゴルフ大会



学事奨励会



先進地視察遠足

